

狭き門、スポーツを職業にすること  
～大学スポーツ関連学部の就職先動向～

福山大学 相原ゼミ

○田子侑裕 藤本和希 松村章仁 内藤貴之 久保田遼 松尾直人  
田中伸乃輔 原田賢吾 桑田晃輔 桑田潤一 安田祐城 綿山 達哉

### 1.調査の目的

現在は就職難と言われ、どの企業でも就職するのはかなり厳しいと言われている。福山大学の学生でもスポーツ関連の就職率はかなり低く、一般企業や公務員などが多い。そこで、スポーツ学部のある大学にアンケートを取り、大学におけるスポーツ関連学部の就職先の実態を総合的に把握し、セカンドキャリア教育やデュアルキャリア教育をより効果的に実践するために必要な基礎資料を得ることを目的とした。

### 2.調査内容

スポーツ関連の学部・学科・コースの名称と、入学定員や全体の学生人数、さらに2012年の業種別就職状況やスポーツ関係の就職先と人数を調査した。大学ごとのカリキュラムを調査し各大学の特徴、就職先との関係性を比較した。国内のスポーツ関連学部にアンケートを実施し、さらに細かく各大学の就職先に関する実態を調査した。これをもとに日本各地の大学のスポーツ関連学部の就職率を調べた。その他にもいろいろアンケートに答えていただいたので順番に発表していきたいと思います。

### 3.調査結果

まず、スポーツ関連学部の名称が多かったのは、教育学部やスポーツ健康科学部、健康スポーツ科学部、体育学部です。これは、アンケートが戻ってきた35大学のうち11校もありました。スポーツ関連の学部・学科・コースを開設したのは、立命館が2010年に開設して、昔からあるのは愛知教育大学で1914年、次は岡山大学と山口大学、静岡大学で1949年に開設されています。2000年以降に開設された大学は19校もあり近年どんどん増えていることがわかりました。

入学定員ですがこれにはかなりの差があり驚きました。多い大学で日本女子体育大学や早稲田大学、大阪体育大学が400人以上の定員数という結果が出ていました。他にも東京女子体育大学や順天堂大学は300人以上定員数がありました。

大学全体の就職率とスポーツ関連の就職率も回答して頂きましたが、就職希望者に対す



これらの調査内容から、2012年度業種別就職状況や大学スポーツ関連学部のスポーツ関連の就職先について比較・分析していきたいと思います。

はじめに、分析からしていきたいと思います。2012年度業種別就職状況なのですがこれには教員や公務員などのその他を含む20項目を準備して業種別で見えてきました。まず教員なのですが大阪体育大学と岡山大学は他の業種と比べるとずば抜けて教員になった人が多かったです。教員になった人が多い大学は35校中14校と約半分の大学がありました。次はサービス業なのですが、愛媛大学が一番多くて163人でした。次に大学院進学なのですが、愛媛大学がずば抜けて多く、400人以上いました。次に多かったのは奈良女子大学で170人ぐらいです。愛媛大学に関しては他の大学と比べてかなり就職や進学的人数が違い、就職する人や進学する人はとても多かったです。

調査結果をもとに作成したデータから読み取ってみると、まず目を付けたのがスポーツ学部で教員に就職する人がどれくらいいるのか、就職率で教員が20%以上の大学を挙げてみると、まず白鳳大学、日本女子大学、東京女子体育大学、静岡大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪体育大学、山口大学、鹿児島大学、長崎大学、以上の9校の大学がその大学の教員就職者の就職率の20%を上回る大学です。なかでも静岡大学に関しては定員数24人中22人が教員合格者で81,5%を占めていました。ただ大学のカリキュラムを見てみると他の大学とさほど変わりませんでした。この辺は国立大学というのはあるかもしれません。それからアンケートに答えてくれたスポーツ学部のある大学全体の定員の数がざっと550人未満で教員になった人が120人程度。その他はフィットネスクラブが多かったです。それから一般企業、スポーツメーカーやスポーツショップなどに就職する人。しかしスポーツ学部に入っていたからといって皆がスポーツに関する仕事についている訳ではありません。金融業や不動産業、情報通信業とごく一部ですが、スポーツから離れた職業に就く人もいます。教員が多い理由は公務員というのもあってか、自分たちも学校に通ってきたし、その中であんな先生になりたいだとか、憧れみたいなものが生まれるのかもしれない。上記の9校に関わらず、どの大学もスポーツ実技があります。スポーツを教えるには自分が知っていないといけないので球技や水泳を自らが体験して、教員免許やスポーツインストラクターなどを目指すということもわかりました。

スポーツ関係の仕事について、各大学のアンケートからわかることは体育大学がスポーツ関係の仕事についている生徒が多いが他のスポーツ関連学部、学科、コースの生徒は体育学部には比べれば少なくなっている事がわかる。

体育学部の生徒はフィットネスジムや総合型スポーツクラブの仕事に多くの生徒が就職していることがわかる。特に女子体育大学の生徒がこれに多く該当することがわかった。

しかしほとんどの大学がスポーツ関係の仕事についている生徒が少ないこともアンケートからわかった。今回のアンケートでスポーツ関係の就職は少ないが、教員、小売業、製造業、サービス業、福祉・医療業の就職については、多くの生徒が就職しているこ

とがわかる。スポーツ学部や学科、コースでスポーツについて学んでいてもなかなかスポーツ関係の就職につきにくいことが今回のアンケートでわかったことである。

## 5. 結論・まとめ

上記の比較・分析を踏まえてまとめると、スポーツ学部に入ったからといって、スポーツ関連の職種に就いている人はそう多くないことがわかった。まず一番に多いのが教員に就職するのが多い。収入から考えるとスポーツ関連の職業は、プロスポーツ球団や一流企業でない限り多くの収入は望めない。かといってスポーツインストラクターなどは、やりがいはあるとおもうが、仕事の割りにはといった面があるので考えにくい。男性だと将来家族を養っていくだけの収入がないとなかなか決めがたい。なので公務員である安定した教員に流れることも考えることができます。大学で考えてみると、多くが国立大学のほうが就職率が高い。これは企業から見ると国立出のほうが印象はよく見えると思います。確かに学力も平均してみると公立・私立よりかは国立のほうが良いと思います。大事なのは個人の社会性があるかどうかだと考えます。やるかやらないからは最終的には自分次第。将来の夢を掴むのも自分の努力の量だと考えます。「努力は必ず報われる」大学のカリキュラム以外にも勉強している人もいます。

これらを踏まえて、スポーツ関連の就職にどうしたらつくことができるかやはりスポーツ関連の仕事についている人は、体育大学徒が多いことが今回の調査でわかった。それに比べスポーツ学科・コースの生徒はなぜスポーツ関連の仕事につくことができないのかやはり体育大学の生徒に比べて専門的知識が劣ることも考えられると思います。これからスポーツ関連の仕事に多くついていくためには、大学の生徒がより多くの知識が必要となりその知識を使っていける力が必要になると思います。

### <資料・文献>

友松篤信(2012) グローバルキャリア教育 グローバルの人材育成

苅谷剛彦(2010) 大卒就職の社会学 データから見る変化

山下秋二・中西純司・畑攻・富田幸博(2000) スポーツ経営学

浦山真市(2005) スポーツにかかわる仕事

喜多野乃武次・土反康裕・富山浩三(1997) レジャー・スポーツサービス論